

意見交換

(事前質問・意見・要望の項目に沿って)

Q1) 高森町議会は今年7月に任期満了となり改選を迎えます。来年1月には町長選も予定されています。そこで、少し早いですが、おうかがいします。

①4年間の任期を振り返って、どのようなことを感じていますか。

②現在の町政について、どのように評価しますか。また今後の町政について、どのようなことが必要だとお考えですか。

北沢幸保議員

- ①◆町の計画や町長の公約や地元の要請にも無かったサッカー場が出来たことの経緯に怒りを感じると共に、今後の町の財政に影響が出ることを懸念しています。
- ◆場外舟券売場に対して地元と議会は反対したのに、町長は反対の意思表示をしていません。町民や議会の意思決定を尊重しない姿勢に疑念を抱きます。
- ◆八日市場線への要対策土の持ち込みに対して、地権者から反対されて断念しましたが、他の町内工事への持ち込みは断念していません。環境や町民の健康を守るより、JRの立場を主張しています。町長が環境保全条例を守らないことは絶対に許せません。

北沢幸保議員

②◆信州たかもり温泉をリニューアルするか廃止するか等の判断が求められています。町長は、3月議会の令和6年度一般会計補正予算に実施設計費と令和7年度の工事費を盛り込もうとしています。改修工事費は15億円かかると説明しました。国への補助金の申請は2月4日に行っていて、国の採否は3月下旬～4月になるようです。

しかし町民には改修の基本設計案は示されましたが、最終的な基本設計や事業を担保する町の財政状況の見通しなど判断する情報については全く不十分です。必要な情報を要求して、町民に知らせて、改修の有無等は町民の意向で判断するべきです。その為には、議会に対してリニューアル関連予算の議決を保留させ、町民が考える時間を確保するしかありません。

北沢幸保議員

②◆地域交流センターの実施設計が令和7年度予算案に盛り込まれるようです。基本設計案に対する町民の意見募集は12月20日に締め切られましたが、町民に対して、最終的な基本設計の説明会は行われていません。また、建物の解体や建設にいくらかかるのかも示されていません。このような状況では実施設計の予算を議会で審議することは不可能です。

たかもり温泉も地域交流センターも、町民に十分な情報が伝わっていないのに、3月議会に関連予算を計上することはあまりにも拙速です。まちづくり基本条例や議会基本条例が「絵にかいた餅」にならないように手立てを尽くすべきです。

三浦喜久夫議員

- ①前期・後期ともに委員長としての役を全うすることに努めてきました。議会の中では議会基本条例が昨年9月に制定され、議会運営や方針、基本的なルールが明文化されました。議会や議員の活動の指針を町民の皆様とともに共有していきたいと思っています。
- ②少子高齢化、人口減少がますます深刻化する中、子育てや人材育成などに力を入れています。環境面では、ゼロカーボンに向けて取り組んでいることは、この町が住みやすいといえる一面と思います。シニア時代に向け、農商工や観光など町の産業にもう少し力を入れる必要があると感じています。

小川修議員

- ①議員の仕事は思っていたよりすべきことも多く、またデジタル化への対応も不慣れなため、苦慮しておりましたが、なんとか克服しました。2050年のゼロカーボンに向け一段と活用の方が必要視されております。習得していくことが多いと感じております。
- ②議員になってすぐコロナとロシアのウクライナ侵攻による物価高騰。行政の対応は、皆さんの生活不安に対し、生活応援券の配布など対策が行われていると思っています。

小沢恵子議員

① 1年目から「議会だより編集特別委員会」に在籍しています。3年目から委員長になったことをきっかけに、伝える責務と真摯に向き合い、討論や質疑をはじめとする「議会の見える化」と、より「わかりやすい」より「読みやすい」編集を心がけ、1月に行われた長野県「議会広報クリニック」では、161号について講師から概ね良い評価をいただくことができました。これも、編集に当たりご協力をいただいている皆さんと、読んでくださっている皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

また、現在発行中の162号では、創刊以来初めての「議会だより読者アンケート」を行っています。多くの皆さまから回答を寄せていただき、今後の参考にさせていただきたいと思えます。ぜひ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

② 「第7次 町づくりプラン」に基づいた政策として認識しています。人口減少に関する課題は多岐にわたりますが、あったかてらす・ほたるパーク・MIZBEステーション等々が、関係人口・交流人口の創出につながり経済効果が期待されます。「地域に根差した人材育成」などを含め、若い世代にとって「住み続けたい町」という意識に繋がっていくことを期待しています。